

拝啓 晩~~の~~候、長尾先生におかれましてはますます
ご健勝のこととお慶び申し上げます。先日はご多忙の中、
実習の機会をいただき、誠にありがとうございました。

様々な職種からの在宅医療の実際の現場や、貴院の皆様
の思いに触れることができ、非常に有意義な時間を過ごす
ことが出来ました。また、患者様やそのご家族様というに
方達ともお話をさせて頂いたことができて本当に貴重な
機会を頂いたと思っております。

認知症の患者さんでも独居では生活できること、胃瘻を
つけて帰ってこられた方が、胃瘻がなくなると経口摂取が
出来るようになっていくことなど自分が疑いもせず、当然の前
だと思っていることは決して前に前ではないことに気がつか
されました。

また、お恥ずかしい話ですが、決して傲慢にはなさない。
世間一般の人の普通の感覚を持ち合わせた医師になれない

とずっと思っっていました。しかし、なでしこの看護師さんに行
かせていただいた時に「診せてくれてあそびがとうね」の言葉に
はっとさせられました。いつの間にか診せてもらうことが、
当たり前になっていて自分の感覚がずれていたことに気が
つきました。

日常の忙しさにかまけて、どうしても医師になりたい
との思いも薄れていたような気がします。でも、やっぱり、
在宅医になりたい。そう改めて思うことが出来た一ヶ月でした。
先生に頂いた本も読ませていただきました。ＴＳー１が
最後までこの中に残っていたご家族さんのお話などに響く
お話がたくさんあそびました。

長尾先生とのご縁を作って下さった先生にも改めて
感謝する次第です。

本当にあそびがとうございました。

今回、得た経験も踏まえて、病態と実際の現場で

学んだことを関連付け、疾患だけを診るのではなく、
人を診る。医師になりたいと改めて思いました。

知識不足であつたにも関わらず、嫌な顔一つせず

懇切丁寧に質問や相談に応じてくださいました。全ての
スタッフの方にも何卒よろしくお伝えください。

先生もご多忙かとは思いますが、何卒お体をご自愛下さい。
略儀ではございますが、取急ぎ書面を持ってお礼申し上げます。

敬具